

高知県感染症発生動向調査（月報）

2021年12月

高知県感染症情報センター

高知県衛生環境研究所

TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>

E-mail : 130120@ken.pref.kochi.lg.jp

全国情報

第48週(11月29日～)から第52週(～1月2日)までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における12月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると34.74で11月の26.18に比べて増加した。増加の原因は感染性胃腸炎の増加である。同じ11月では、過去10年間では2020年の16.89に次いで2番目に少なく(例年60～120台)、対新型コロナの感染予防対策により日常的感染症はまだ抑制されている。

1位は感染性胃腸炎で4週換算値24.98(11月1位13.76)と11月に比べて増加した。2位は手足口病で3.75(同2位6.02)と減少した。3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で2.51(同3位2.12)とわずかに増加、4位はRSウイルス感染症で1.30(同6位1.00)と増加した。5位は突発性発疹で1.18(同5位1.42)とわずかに減少し、6位は咽頭結膜熱で1.02(同8位0.65)と増加した。

〈新型コロナウイルス感染症 COVID-19〉

11月26日にWHOが、南アフリカで検出されたオミクロン株(○株)を『懸念される変異株(VOC: Variant Of Concern)』に指定したが、12月になると、日本でも入国した外国人2名から○株が検出され、さらには市中感染を起こすようになり、あっという間に日本全国に拡大した。先行して猛威を振るった変異株、α株とδ株は、強い感染力や重症度が問題となり都市部を中心に医療崩壊を起こした。○株はさらに強い感染力を有し、潜伏期も短縮し(沖縄県での調査では約3日と、○株以外の4.8日より短い)、肺よりも上気道で増殖しやすく、重症化しにくいのが特徴である。沖縄、岩国といった米軍基地から感染が広がったことも苦い記憶となった。ワクチンの効果も減衰してきており、3回目の追加接種を急ぐのがわが国の方針である。新型コロナウイルスのいわゆる「馴化」によりパンデミックからエンデミックへの移行期に入ったと思われる。

世界の患者数は、図1左に示すように、1月5日には2億9千万人を、死亡者は545万人を超えた。患者数を国別にみると、1月5日現在、1位米国(5,704万人、人口あたりの感染率17.34%、1日に100万人を超える感染者数を記録した)、2位インド(3,496万人、感染率2.56%)、3位ブラジル(2,232万人、感染率10.58%)、4位英国(1,372万人、感染率20.32%、感染率は米国を上回り1位)、5位フランス(1,069万人、感染率16.42%)、6位ロシア(1,039万人、感染率7.12%)、7位トルコ(965万人、感染率11.57%)、8位ドイツ(732万人、感染率8.77%)、9位スペイン(678万人、感染率14.52%)、10位イタリア(656万人、感染率10.85%)である。

日本の患者数を図1右に示す。4月～6月はα株(英国型変異株)、7～8月はδ株(インド型)の流行による患者急増がみられた。9月以降は増加がゆるやかになっており、ワクチン接種の効果と思われた(12/5の時点で全国では全人口の85.0%が2回の接種を受けた、表3)。日本では○株対策として、減衰した抗体価を再度上昇させるために(ブースター効果)、3回目の追加接種を12月から開始した。1月5日現在の国内感染者は1,736,847人、死亡者は18,397人となった。1月中旬には感染者数のかつてない増加をみとめ第6波に突入した。これに対抗して、政府は3回目接種を可及的速やかに進めるよう号令を発した。

英国保健当局によると、○株に対しては、ファイザーやモデルナのmRNAワクチンで、2回の接種から2～4週間後には発症予防効果が65～70%だったが、接種後20週を超えると10%程度に下がる。しかし、ファイザーのワクチンを2回接種した人が3回目にファイザーかモデルナの追加接種をすると、2週間から4週間後には発症を防ぐ効果は65%～75%に上がった。ただ、3回目接種から5～9週間後では55～70%に、10週を超えると40～50%に下がったと報告している。その一方で、重症化(入院)を防ぐ効果は、発症予防効果よりも高く、ファイザー、モデルナともに、2回の接種後2～24週間では72%、25週超でも52%、3回目の追加接種をしたあと2週以降では88%であった。

COVID-19は高齢者ほど重症化しやすい。各年齢層の死亡率は、80代以上 14.3%、70代 5.4%、60代 1.6%である(2022年1月4日現在)。経時的な年齢層別患者数を図2Aに、1月4日時点で累積感染者数が人口に占める割合を図2Bに示す(総務省統計局作成の2021年8月現在人口推計を用いて算出 <https://www.stat.go.jp/data/jinsui/pdf/202108.pdf>)。感染者の割合は、20歳代が最大で3.30%(100人あたり3.30人が感染)、次いで30代の2.04%、10代1.60%、40代1.48%と続いている。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	48週	49週	50週	51週	52週	計
1	感 染 性 胃 腸 炎		5.24	6.65	7.42	7.78	4.14	31.23
2	手 足 口 病		1.22	1.14	1.00	0.87	0.46	4.69
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.61	0.68	0.75	0.73	0.37	3.14
4	RS ウ イ ル ス 感 染 症		0.25	0.30	0.36	0.40	0.32	1.63
5	突 発 性 発 疹		0.31	0.33	0.33	0.32	0.18	1.47
6	咽 頭 結 膜 熱		0.23	0.25	0.28	0.32	0.19	1.27

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の12月の上位6疾患の合計は4週間換算値が16.63で11月の12.23に比べて増加したが、全国よりも少なかった。同じ月で比べると2020年の15.10に次いで2番目に少なかった（2019年以前は40～100台）。

1位は感染性胃腸炎で10.83（11月1位7.04）と増加したが全国よりも少なかった。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で2.51（同2位1.64）と増加し、全国と同等だった。3位は咽頭結膜熱で1.32（同4位0.93）と増加し、全国よりも多かった。4位は突発性発疹で1.28（同2位1.64）と減少し、全国と同等だった。5位は手足口病で0.37（同5位0.65）と減少し全国よりも少なかった。6位は水痘で0.32（同7位0.29）と横ばいで全国よりも少なかった。

〈新型コロナウイルス感染症 COVID-19〉

高知県におけるCOVID-19の月別患者数を図3に示す。東京五輪とともに急増し8月の集計は1,382人に昇り、8月25日には、県の1日最多の111人を記録した。9月は632人と減少に転じ、10月は64人、11月は2人と減少し、11月12日を最後に48日間連続で報告ゼロが続いていた。しかし、2022年1月4日から患者数が急増し第6波に突入した。1月5日時点の集計では感染者は4,177人、死亡は33人である。

県の対応ステージは、8月19日に「非常事態（紫）」に引き上げられたが、患者数の減少を受けて9月22日「特別警戒（赤）」に、同28日「警戒（オレンジ）」に、10月11日「注意（黄）」、10月28日には「感染観察（緑）」に引き下げられていた。しかし、o株による第6波の到来により、翌2022年1月7日「注意（黄）」に引き上げられた。

ワクチン接種は順調に進んでおり、12月5日時点で（表3）、県人口の85.3%が1回目を接種し、83.8%が2回目を受け終わった。65歳以上の89.4%が2回接種を完了し、12-19歳も68.3%が2回接種を終えている。3回目のブースター接種を迅速に進めるよう市町村に期待したい。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	48週	49週	50週	51週	52週	計
1	感 染 性 胃 腸 炎		2.21	2.18	3.04	3.61	2.50	13.54
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.46	0.82	0.93	0.57	0.36	3.14
3	咽 頭 結 膜 熱		0.36	0.18	0.25	0.50	0.36	1.65
4	突 発 性 発 疹		0.21	0.39	0.25	0.36	0.39	1.60
5	手 足 口 病		0.14	0.11	0.07	0.14	0.00	0.46
6	水 痘		0.04	0.07	0.11	0.18	0.00	0.40

図1,2022年1月5日時点でのCOVID-19(厚生労働省HPから)

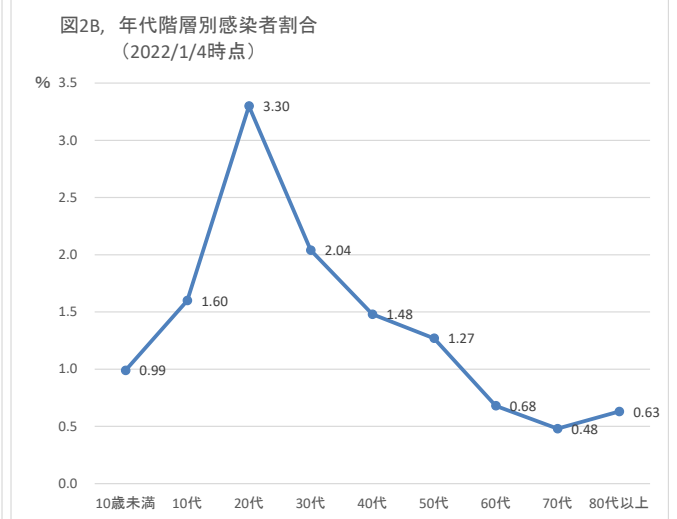
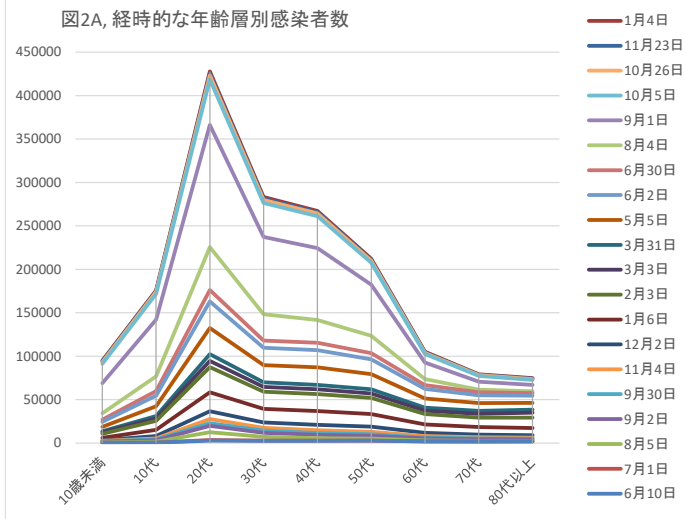
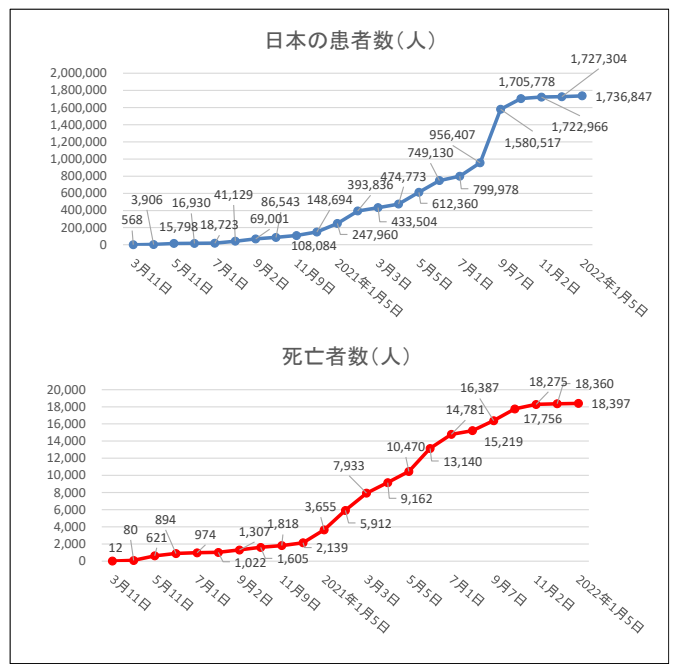
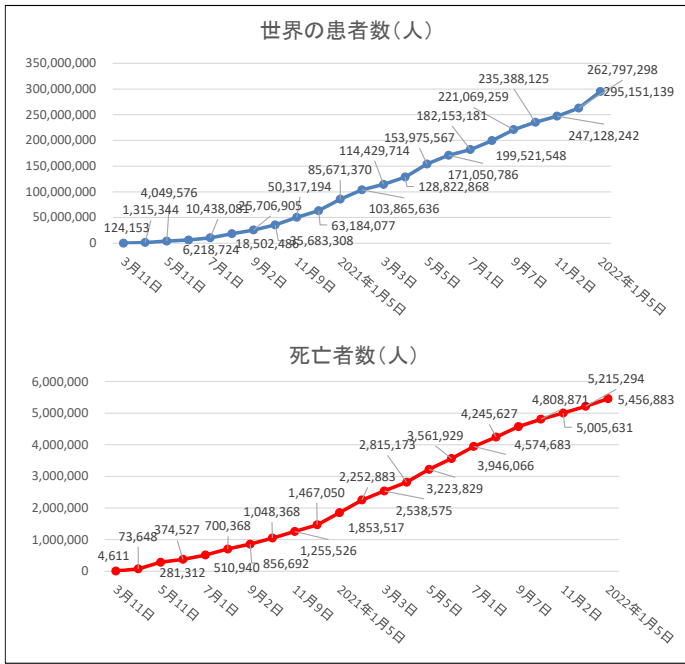


図3.高知県のCOVID-19月別患者数 ~2022年1月5日

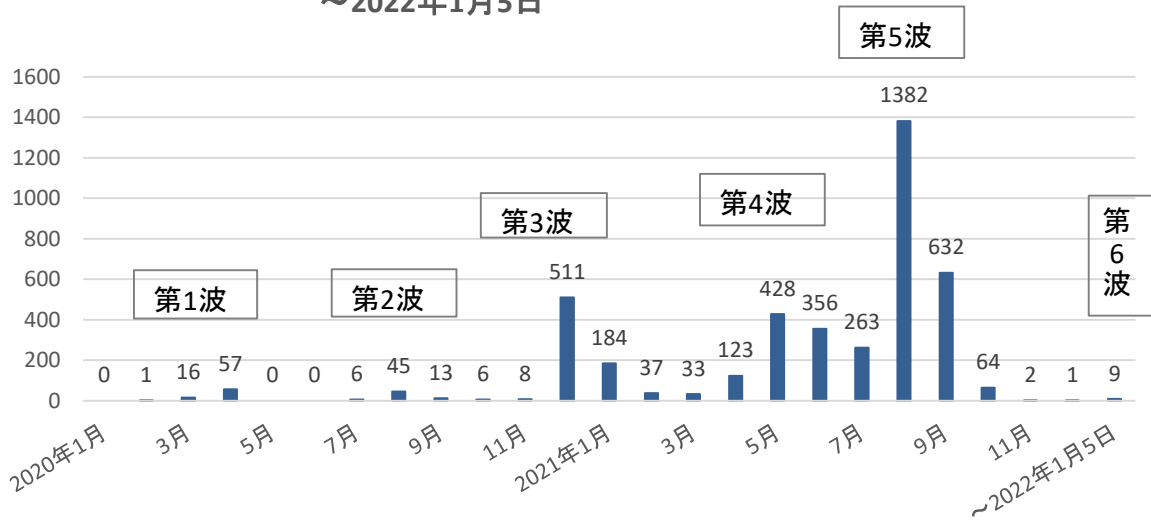


表3 高知県における年代別コロナワクチン接種率（12月5日時点）

	1回目	2回目
全国	86.8%	85.0%
高知県全体	85.3%	83.8%
65歳以上	90.1%	89.4%
60～64歳	86.9%	86.3%
50代	85.7%	84.9%
40代	79.5%	78.4%
30代	74.4%	72.8%
20代	73.9%	71.8%
12～19歳	70.7%	68.3%

2. 全体の傾向

麻疹、風しんの報告無し。COVID-19流行による衛環研の業務増大のため、感染症発生動向調査としての他の病原体を検出する事業を休止していた。11月から再開していたが年が明けて1月には再度休止に入っている。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 3名（11月 0名）。2020-21年シーズンは流行がなく、これは統計がある1998年以降で初であった。対新型コロナの感染対策とインフルエンザワクチン接種の徹底によるものだったと推測される。2021-22シーズンはどうか注目される。高知市、中央西、須崎から各1名（幼児、30代、80以上が各1名）で散発的に報告されたが流行は到来していない。全国各県でも流行は未だ始まっていない。ウイルスは検出されていない。

2) 咽頭結膜熱

報告数 46名（11月 26名）。この時期としては標準的な数である。高知市、幡多、中央東、須崎から表記の順に多く報告された。12月にはアデノウイルスは検出されていない。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 88名（11月 46名）。この時期として過去10年間で3番目に少ない報告数であった。県下全域から報告があり、高知市、幡多、須崎が特に多かった。細菌は検出されなかった。

4) 感染性胃腸炎

報告数 379名（11月 197名）。ノロウイルス流行で5月は増加したが、その後、減少しており、10月は同時期として過去10年で最少、11月は2020年に次いで2番目の少なさだったが12月は増加し平年並だった。県下全域から報告され、高知市、中央東、中央西が特に多かった。病原体は検出されていない。

5) 水痘

報告数 11名（11月 8名）。2014年10月からの予防接種定期化の効果で少ない数で推移している。10月以降は過去10年で最少であった。幡多以外の県下全域から報告された。

6) 手足口病

報告数 13名（11月 18名）。2020年は7月と10月にピークがあり二峰性であった。10月をピークとした流行が年を越えてだらだらと続いていた。2021年は、7月から増加を続けたが10月から減少に転じ終息に向かっている。幡多、中央東、高知市から報告された。ウイルスは、11月に採取された手足口病の患者検体からCoxsackievirus A6が3件検出されていて、今季の流行株であった。

7) 伝染性紅斑

報告数 1名（11月 4名）。2020年9月以降は1けたの報告数が続く。高知市から1名が報告された。ウイルスは検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 45名（11月 46名）。想定内の変動である。

9) ヘルパンギーナ

報告数 6名（11月 7名）。2020年は、遅れて10月を流行のピークとし、その後ただらと続いた。2021年は5月に流行が始まり、同時期としては過去10年で最多となり早い流行となった。6月、7月となだらかに増加して平年並みの流行規模に落ち着き、8月は減少、9月は再度増加したが10月以降減少し終息に向かっている。幡多、須崎、高知市から表記の順に多く報告があった。流行ウイルスは特定されていない。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 1名（11月 1名）。10月以降は、同時期として過去10年で最少が続いている。中央東から1名報告された。

11) RSウイルス感染症

報告数 2名（11月 1名）。2020年は、3月以降減少し、本来の流行期である11月～3月は異例のゼロが続いた。2021年は、5月57名、6月395名、7月1,543名と急増した。8月は1,013名と減少に転じ、9月193名、10月11月は1名、12月2名と収束した。2021年の夏は季節外れの爆発的流行であり、とくに7月は年間報告数（過去10年間の平均値1,114名）を1か月の報告数が上回った。しかし、その後は秋から冬にかけて流行がなく、季節性が逆転している。夏の流行期に採取された鼻汁から、いずれもRespiratory syncytial virus A が検出されており、今年の流行はこのA型のRSウイルスであったと推測される。

12) 流行性角結膜炎

報告数 1名（11月 1名）。高知市で1名が報告された。

13) 細菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 1名（11月 0名）。中央東で50代前半の患者が報告されて、2021年は合計6名となった。年間に10名前後の報告で推移していたが、2017年以降は6名/年以下で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因とする小児例の報告は1例もなく、成人例も近年減少している。

14) 無菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 1名（11月 0名）。高知市から10代後半の患者が報告されて、2021年は計3名となった。従来は年間20～30名台の報告数で推移していたが、2017年7名、2018年1名、2019年5名、2020年2名、2021年も3名と少なく流行はない。

15) マイコプラズマ肺炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 1名（11月 0名）。高知市から70歳以上の高齢者が1名報告された。2020年11月以降は、同時期として過去10年間で最少が続いている。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 25名（11月 25名）。平年並である。幡多、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名（11月 0名）。2020年1月以降は発生がない。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（令和3年12月）

類型	病名	報告月												総計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
2	結核	1	5	6	7	3	4	5	6	8	3	4	13	65
4	重症熱性血小板減少症候群		2			1	1							4
	つつが虫病											1		1
	日本紅斑熱			1	2	2	3	1		2	3	2		16
	レジオネラ症						3	1	1	2		1		8
5	アメーバ赤痢										1			1
	ウイルス性肝炎	1											1	2
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1			1		1	1					1	5
	急性脳炎							1						1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1		1			1				1		5
	侵襲性インフルエンザ菌感染症										1			1
	侵襲性肺炎球菌感染症	1		2	1	1	2			1			1	9
	水痘（入院例に限る）							1		1		1		3
	梅毒	8	4	4	6	8	13	6	10	14	6	7	10	96
	破傷風	1												1
百日咳	1					1			1				3	
総計		15	12	13	18	15	28	17	17	29	14	17	26	221

高知県感染症情報 月報 (63定点医療機関)

2021年 12月

定点名	疾病名	保健所							計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				
内科・小児科	インフルエンザ			1	1	1			3		
小児科	咽頭結膜熱		5	33		1	7		46	26	21
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	1	59	2	4	21		88	46	70
	感染性胃腸炎	14	82	211	28	9	35		379	197	148
	水痘	1	3	4	2	1			11	8	25
	手足口病		5	4			4		13	18	132
	伝染性紅斑			1					1	4	4
	突発性発疹	3	7	17	3	8	7		45	46	46
	ヘルパンギーナ			2		1	3		6	7	96
	流行性耳下腺炎		1						1	1	4
	RSウイルス感染症		2						2	1	
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎			1					1	1	4
STD	性器クラミジア感染症			3					3	3	2
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ		1	1					2	1	2
	淋菌感染症										1
基幹	細菌性髄膜炎		1						1		2
	無菌性髄膜炎			1					1		
	マイコプラズマ肺炎			1					1		1
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)										
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスである ものに限る)		1	2					3		
	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症		2	17			6		25	25	21
	ペニシリン耐性肺炎 球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌 感染症										
計		19	111	358	36	25	83	632	384	579	
前月		23	57	173	23	36	72				
前年同月		21	119	300	38	20	81				
小児科定点数		2	7	9	3	2	5				

高知県感染症情報 月報 (63定点医療機関)

2021年

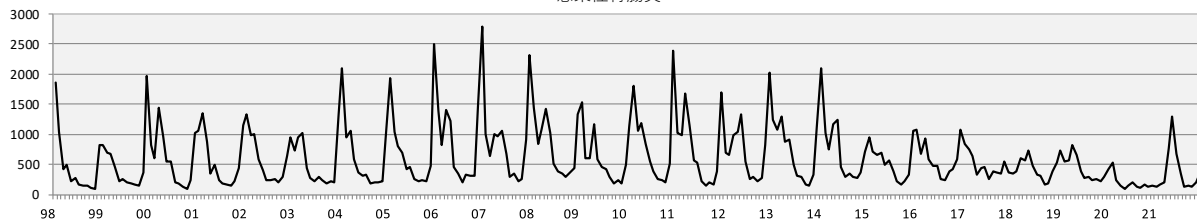
12月

定点当たりの人数

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ			0.07	0.20	0.25		0.06		
	咽頭結膜熱		0.72	3.67		0.50	1.40	1.65	0.93	0.75
小児科	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	0.14	6.56	0.66	2.00	4.20	3.14	1.64	2.49
	感染性胃腸炎	7.00	11.72	23.43	9.33	4.50	7.00	13.54	7.04	5.28
	水痘	0.50	0.42	0.44	0.66	0.50		0.40	0.29	0.89
	手足口病		0.71	0.44			0.80	0.46	0.65	4.72
	伝染性紅斑			0.11				0.04	0.15	0.15
	突発性発疹	1.50	1.01	1.87	1.00	4.00	1.40	1.60	1.64	1.64
	ヘルパンギーナ			0.22		0.50	0.60	0.23	0.25	3.42
	流行性耳下腺炎		0.14					0.04	0.04	0.16
	RSウイルス感染症		0.29					0.07	0.04	
	眼科	急性出血性結膜炎								
流行性角結膜炎				1.00				0.33	0.33	1.33
STD	性器クラミジア感染症			1.50				0.50	0.50	0.33
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ		0.50	0.50				0.33	0.17	0.33
	淋菌感染症									0.17
基幹	細菌性髄膜炎		1.00					0.13		0.26
	無菌性髄膜炎			0.20				0.13		
	マイコプラズマ肺炎			0.20				0.13		0.13
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限り)		1.00	0.40				0.39		
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		2.00	3.40			6.00	3.13	3.13	2.63
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
小児科定点分計		9.50	15.15	36.81	11.85	12.25	15.40	21.23	12.67	19.50
前月		6.50	8.01	17.42	7.68	18.00	13.80			
前年同月		10.50	15.86	30.76	12.64	10.00	15.80			

注目される疾患別月別推移

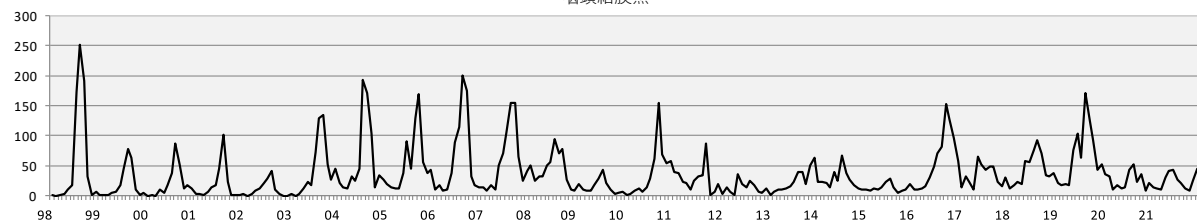
感染性胃腸炎



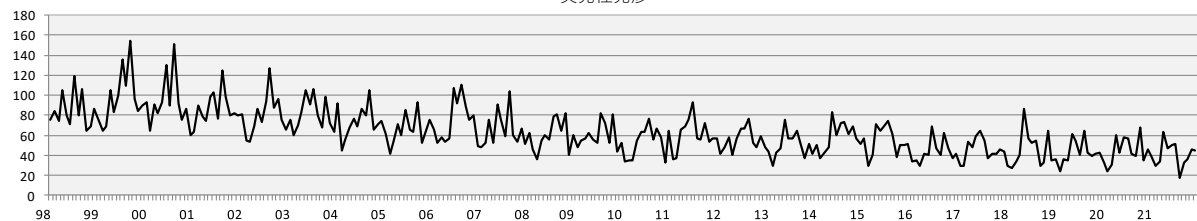
A群溶血性レンサ球菌感染症



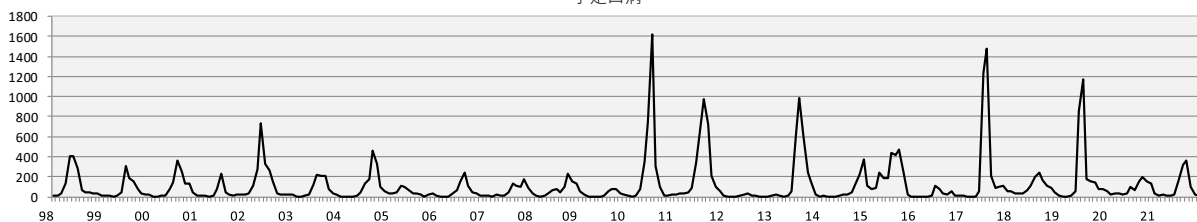
咽頭結膜熱



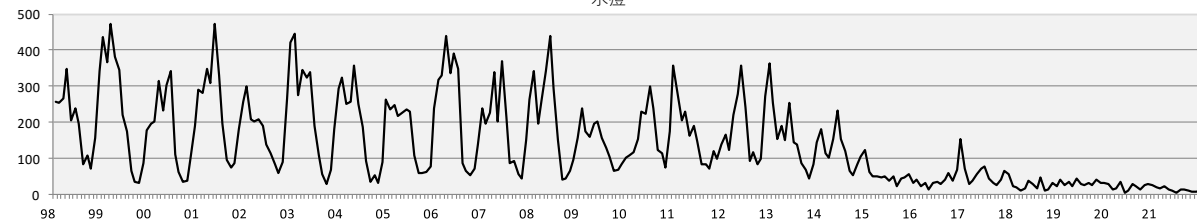
突発性発疹



手足口病



水痘



高知県感染症情報(月報)

2021年12月

検査情報

ウイルス, 細菌の分離状況

12月はウイルス 16件の搬入があり、そのうちウイルス 1件の病原体を検出し、また、2021年11月に搬入された検体でウイルス 6件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Coxsackievirus A6 2件、Human herpes virus 6 1件、Rhinovirus 4件であった。

ウイルス, 細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス, 細菌の検出
1	4	男	-	咳嗽	ぬぐい液	11/16	Rhinovirus
2	1	男	手足口病	40℃,発疹,	ぬぐい液	11/22	Coxsackievirus A6
3	6	男	-	38℃,嘔吐,	ぬぐい液	11/26	Rhinovirus
4	13	女	インフルエンザ様疾患	39℃,上気道炎,	ぬぐい液	11/26	Rhinovirus
5	4か月	男	特発性血小板減少性紫斑病	上気道炎,	ぬぐい液	11/29	Rhinovirus
6	1	女	手足口病	39℃,	ぬぐい液	11/29	Coxsackievirus A6
7	1	女	不明発疹症	39℃,発疹,	ぬぐい液	12/6	Human herpes virus 6

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2020年												2020年総	2021年			2021年総	
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		10月	11月	12月		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable														1				1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1			1															0
	計			1											1	1			1
インフルエンザ	Adenovirus 1	1													1				0
	Influenza virus A H1pdm09	27	9												36				0
	Influenza virus B /Victoria	3	4	1											8				0
	Herpes simplex virus 1	1													1				0
	Rhinovirus	1													1				0
計	33	13	1											47				0	
咽頭結膜熱	Adenovirus 1												1	1				0	
	Adenovirus 3	1												1				0	
	Human herpes virus 6															1		1	
計	1	0										1	2		1		1		
感染性胃腸炎	Coxsackievirus B5	1												1				0	
	Norovirus GI NT			1										1				0	
	Norovirus GII NT	2	7	1										10		1		1	
	Rotavirus group AG9		1											1				0	
	Rhinovirus		1								1	1		3				0	
	Sapovirus genogroup unknown		1											1				0	
計	3	10	2							1	1		17		1		1		
ヘルパンギーナ	Coxsackievirus A4											2	2				0		
	Coxsackievirus A10											1	1				0		
	計											3	3				0		
手足口病	Coxsackievirus A6														3		3		
	Coxsackievirus A16	13	1	1				5	1	6	3	3	1	34			0		
	Rhinovirus										2		2				0		
計	13	1	1				5	1	6	5	3	1	36		3	3			
伝染性紅斑	Human herpes virus 6		1										1				0		
	Human herpes virus 7	1	1										2				0		
	Human parvovirus B19	1											1				0		
計	2	2										4				0			
流行性耳下腺炎	Mumps virus	2	3										5				0		
	Rhinovirus									1			1				0		
計	2	3								1		6				0			
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus B4												0				0		
	Coxsackievirus B5	1											1				0		
	計	1											1				0		
水痘	Human herpes virus 7		1										1				0		
	Varicella-zoster virus		2										2				0		
	計		3										3				0		
突発性発疹	Human herpes virus 6		1										1				0		
	計		1										1				0		

臨床診断名	病原微生物	2020年												2020年総	2021年				
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		10月	11月	12月	年総	
その他	Adenovirus 1	2													2				0
	Adenovirus 2							2			1				3				0
	Adenovirus C																2		2
	Adenovirus NT							1							1				0
	Coxsackievirus A4	1											1		2				0
	Coxsackievirus A16	1	1												2				0
	Cytomegalovirus							1		1					2			1	1
	Echovirus 30		1												1				0
	Epstein-Barr virus		1												1				0
	Herpes simplex virus 1														1	1			0
	Human herpes virus 6	6	6						1		1	2			16			1	1
	Human herpes virus 7	4	1							1	1	1			8				0
	Human metapneumovirus		2												2				0
	Human parvovirus B19	1													1				0
	Influenza virus A H1pdm09	2													2				0
	Influenza virus B /Victoria	1													1				0
	Norovirus GII NT		1												1				0
	Parechovirus 1								1						1				0
	Respiratory syncytial virus A	1	2												3			2	2
Rhinovirus	2	1	2	1					2	2	2	3	2	17			9	9	
Sapovirus genogroup unknown	1													1				0	
計	22	16	2					6	3	5	6	4	3	68			14	1	15
総計	77	50	6	0	0	0	0	11	4	12	12	11	5	189	1		19	1	21

※2021年1月～10月までは感染症発生動向調査を中断しております。

類型	病名	報告年																				総計				
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018		2019	2020	2021	
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	65	1875	
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	65	1875	
3	コレラ	1					1						1												3	
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2											2					27	
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	4	9	1		207	
	腸チフス			1					1										1				1		4	
	バラチフス	2																							2	
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	4	10	1	0	243	
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					3	1				2		34	
	E型肝炎												1		1								2	1	5	
	オウム病			1		1														1					3	
	Q熱	1	1	2				1																	5	
	重症熱性血小板減少症候群															3	11	3	7	5	5	9	6	4	53	
	つつが虫病		9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8	3	3		4	11	2	3	3	1	94	
	デング熱												1			3	2	1					2		9	
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	13	10	23	16	211	
	日本脳炎	1	1	1					1		1	1													6	
	マラリア								2						1								1		4	
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	6	9	7	8	8	89	
レプトスピラ症												1	4	2	1					1				9		
	計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	29	36	41	29	522	
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5	3	3	1	48		
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1			2	1	1	2	2	62	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																	7	19	21	22	21	20	10	5	125
	急性弛緩性麻痺																					1	2			3
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1			2	1	1	22
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				2			2	1	1	3		35	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1			1		1		1	3		1		3	5	6	2	2	5		33	
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	9	1	6		81	
	ジアルジア症		1	2	1							1		1	1						1					8
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	4	7	3	1	1	25	
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	18	14	22	11	9	107	
	水痘（入院例に限る）																	2	1	1	3		3	3	13	
	髄膜炎菌性髄膜炎										1														1	
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	19	20	35	96	327	
	播種性クリプトコックス症																		1	3	5				9	
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1		2	3	1	36	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1							1								1	1					5	
百日咳																					173	172	35	3	383	
風しん										1	1			4	9	1					3			19		
麻疹										5														5		
	計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	268	251	112	127	1347	
新型	新型インフルエンザ																								34	
	計																								34	
動物	鳥インフルエンザ													1											1	
	計													1											1	
	総計	61	48	67	42	51	53	47	61	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	398	400	214	221	4022	